

恵みと真理のニュース



2014年1月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主の中で神霊な喜びと満足と 平安で生きるようにしてくださる恵みを賛美します。

“何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。”(箴言4:23) 今まで私の人生の貴重だと思う御言葉の中で一つです。神様の御言葉と聖霊の恵みで私の心を守ることができて本当に嬉しいです。人生の中で大きい小さい問題が訪れて来ました。しかしイエス様を受け入れ今日まで相変わらず神様を愛する心と信頼と感謝と喜びを持って生きながら多様な豊かな救いの恵みを享受するようにして下さった神様に感謝を捧げます。私の30代前半のときに旦那が大きい病気を患っていました。当時私はもちろん私の実家の家族も旦那の家族もみんなイエス様を信じなかったです。前が暗くてどうやって生きるか分からない時主は私に救いの手をだして下さいました。伝道する方がくれた証をもらって家で夜通し泣きながら証を読みその次の日自ら区域長を訪ねて行って教会に連れて行くように願いました。そして主を信じ信仰生活を始めました。全ての礼拝ごとに休まずに参加して御言葉の慰めと力を得て旦那の病気が治るように涙で求めました。始めは弱い信仰と残っている我執で神様に“私の旦那を治してくれなければイエス様を信じません。”と言いながら旦那の病気が治る事が私の信仰生活の理由であり目標でした。そして3年が経って信仰が成長して始めに旦那の治癒に執着しなくて主の御心を求め主の御言葉に従順する生活に頑張りました。使徒パウロに肉體のとげで“すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。(コリント手紙二 12:9) 旦那

の病気が神様が私にくださった私の人生のとげではないかと思いました。そして神様がくださった恵みを悟りそのとげを我慢しながら主の能力を求めて主に委ねながら生きるようになりました。旦那の長い病院生活で経済的に大変で住んでいた家を買って貸切で家を転々としたところ1988年旦那が亡くなりました。中学校を通う子供達を一人で育てなければならぬ家長になりました。今から何をしながらどうやって生きるか漠然としましたが神様を信じて頼る信仰と勇気で大胆に世に向かいました。女がやる事が何かあるか考えたあげく小さい飲食店をしようと思ってあちこち飲食店で働きました。初めてやる仕事だったのでやさしくなかったですが信仰と希望で全ての事を乗り越えました。そうするうちにプラスチック製造会社を通いながら独立をしようとした弟が“お姉さん私達工場を作ろうとするが一緒に運営してみよう?”と提案しました。神様に祈った後、あちこちでお金を借りて弟と共に工場を作りしました。電話機一つと車一台もない状態で電気動力が何か全く知らない状態でただ神様を仰ぎながら助けを求めながらソウルのトクサンで地下20坪を縦得て射出機械2台を賃貸して下請を受け、納品する事業を始めました。始めは様々な問題がありましたが神様に祈ると奇異な方法で問題を解決してくださり工場の土台が築かれました。そして神様の恵みで一年、一年注文が増え機材設備も増え工場が大きく拡張になって今日まで20年間女傑だと聞きながら女としてはやさしくない製造業の仕事をする事ができました。事業をするため忙しかった生活でしたので子供達を見守らなかつたでしたが神様が見守ってくださり導いてくださり次々大学と大

学院まで卒業して結婚をして信仰と愛が溢れる家庭を作り主の中で豊かな生活をしています。神様はたとえ私の旦那を早く連れて行きましたが旦那のため祈りはそのまま土に落ちなくて神様は私と子供達の道を愛と恵みで導いて下さった事を確信します。私が前だけ見ながら歩むときはよく意識しなかったですが私の今までの道を返ってみると大変なことに神様の導きと守って下さった事が大きくて驚くほど深く悟りました。全ての事に協力して善を行ってくださる神様を賛美します。事業に熱中しながら主日だけかろうじて教会に行って礼拝をささげる事が神様に申し訳ないし事業が良くなってむしろ心は空しくて心霊が切なくて神様との関係がこうなつたらいけないと思いました。礼拝に最善を尽くして教会で奉仕することを思い私ができる事を捜しました。そして夏の聖書学校を助ける教師を集める報告を見て部署の伝道士を尋ねて行きました。会社も忙しくて、働き人も足りないが“まず神の国と神の義を求め”心で真に教会学校で奉仕しました。仕え奉仕することに頑張ると神様はもっと溢れる天の神霊な祝福を与えて下さって30倍60倍100倍の祝福を享受して生きています。2年前勤士の職分を受けて勤士会のおもな職分を担って教師として奉仕はできないが息子と嫁は頑張つて奉仕しているので嬉しくて神様に限りなく感謝を捧げています。過ぎた日が患乱が今日の祝福になり苦難が今日の栄光になる摂理して下さった神様に感謝を捧げます。主の中で神霊な喜びと満足と平安を享受しながら生きるようにして下さった神様の恵みを賛美します。この新年にはもっと歳月を大事にしてただ神様の栄光になり主を喜ばせ、キリストを高める人生になる事を願い望みます。ハレルヤ!



【信仰コラム】

幸せの理由

“このような祝福をもつ民はさいわいです。主をおのが神とする民はさいわいです。”(詩篇144:15)

幸(しあわ)せな人(ひと)には幸(しあわ)せの理由(りゆう)があります。その理由(りゆう)が多様(たよう)です。靈氣(しんき)楼(ろう)のような理由(りゆう)があります。それが空(むな)しいものだったというのを後(あと)に知(し)るようになります。継続(けいぞく)性(せい)がないことがあります。結局(けっきょく)には大(おお)きな傷(きず)を残(のこ)すものもあります。世(よ)の中(なか)ができてなくて奪(うば)って行(い)けない真(ま)の幸(しあわ)せの理由(りゆう)を持(も)った人(ひと)たちがいます。、イエス・キリストを信(しん)じる人(ひと)たちです。しかし、自分(じぶん)にいる幸(しあわ)せの理由(りゆう)を知(し)らないで幸(しあわ)せを十分(じゅうぶん)に享受(きょうじゆ)できない信者(しんじゃ)がいます。問題(もんだい)は認識(にんしき)の深(ふか)さにあります。理解(りかい)して悟(さと)って感(かん)じる程度(ていど)が弱(よわ)いとまるで知(し)らない人(ひと)のように行動(こうどう)することになります。、イエス・キリストを信(しん)じる人(ひと)は誰(だれ)でも持(も)つようになり幸福(こうふく)の理由(りゆう)があります。第(だい)一(いち)は、神(かみ)様(さま)を知(し)っているのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。神(かみ)様(さま)を知(し)らなければ無(む)神論(しんろん)者(しゃ)者(しゃ)になつたり不(ふ)可知(かち)論(ろん)者(しゃ)者(しゃ)になつたり、偶像(ぐうざう)崇拜(すうはい)者(しゃ)者(しゃ)となります。人(ひと)たちがどのような神(かみ)を信(しん)じて仕(つか)えるかに関係(かんけい)なく、神(かみ)様(さま)に仕(つか)えるものとみなされと言(い)っている人(ひと)がいます。自分(じぶん)の無知(むち)によって他(ほか)の人(ひと)たちが真(ま)の神(かみ)様(さま)を見(み)つけられないように妨害(ぼうがい)する仕事(しごと)をすることです。創造(そうぞう)主(しゆ)で、イエス・キリストを通(つう)じて罪人(ざいにん)を救済(きゆうえん)してくれる神(かみ)様(さま)のほかに神(かみ)様(さま)がいらつしゃいません。これは聖書(せいしよ)に啓示(けいじ)されました。ところで聖霊(せい

れい)が私(わたし)たちの心眼(しんがん)を開(ひら)いて分(わ)かるようにしていただかないと悟(さと)ることができません。人(ひと)は神(かみ)様(さま)を分(わ)かるようになることによって初(はじめ)て、人生(じんせい)の存在(そんざい)理由(りゆう)と目的(もく)もてき)を知(し)るようになります。神(かみ)様(さま)を知(し)っている極(きわ)めて高貴(こうき)な知識(ちしき)を持(も)つようになったのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。第(だい)二(に)は、キリスト人(にん)になったのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。キリスト人(にん)に許(ゆる)された変化(へんか)と映画(えいが)は至極(しごく)してこの世(よ)の中(なか)では十分(じゅうぶん)に全部(ぜんぶ)経験(けいけん)できません。将来(しょうらい)私(わたし)たちが復活(ふっかつ)した体(からだ)を受(う)けることになって新(あたらしい)エルサレム城(じょう)に入(はい)って神(かみ)様(さま)と一緒に(いっしょ)に住(す)んでいるその日(ひ)までただ、想像(そうぞう)で楽(たの)しむほかにほはも分(わ)からないものが多(おほ)いです。キリスト人(にん)になったという事は、神(かみ)様(さま)の選(えら)んだことを受(う)けたものになって福音(ふくいん)を聞(き)いて悔悟(かいご)して、イエス様(さま)を救世(きゆうせい)主(しゆ)と信(しん)じて迎(むか)へ接(せつ)することになる神秘(しんぴ)的(てき)なことです。。。だから、キリスト人(にん)になったのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。第(だい)三(さん)は、福音(ふくいん)が啓示(けいじ)された聖書(せいしよ)を持(も)ったのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。聖書(せいしよ)の核心(かくしん)的(てき)なテーマは神(かみ)様(さま)の息子(むすこ)、イエス・キリストによる見(み)る福音(ふくいん)です。福音(ふくいん)は、その内容(ないよう)が非常(ひじょう)に様々(さまざま)で、豊(ゆた)かです。これを7つに分類(ぶんるい)すると、恵(めぐ)みの福音(ふくいん)、愛(あい)の福音(ふくいん)、権能(けんのう)の福音(ふくいん)、治療(ちりょう)の福音(ふくいん)、天国(てんごく)福音(ふくいん)、再臨(さいりん)の福音(ふくいん)、復活(ふっかつ)の福音(ふくいん)書(しよ)です。私(わたし)たちは聖書(せいしよ)を通(つ

う)じて神(かみ)様(さま)を分(わ)かるようになって万物(ばんぶつ)が存在(そんざい)することになった理由(りゆう)を分(わ)かるようになりました。聖書(せいしよ)を通(つう)じて人間(にんげん)の墮落(だらく)と救援(きゆうえん)の福音(ふくいん)を分(わ)かるようになりました。神(かみ)様(さま)が人生(じんせい)のために聖書(せいしよ)をくださいました。聖霊(せいれい)の感動(かんどう)するのを着(き)た人(ひと)たちが神(かみ)様(さま)からもらって記録(きろく)したことが聖書(せいしよ)です。。。だから、聖書(せいしよ)を読(よ)んで黙想(もくそう)して学(まな)ぶことができるのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。4つ目(め)は、神(かみ)様(さま)にお祈(いの)りをしてできるのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。祈(いの)りは神(かみ)様(さま)との対話(たいわ)であり、神(かみ)様(さま)と交通(こうつう)する手段(しゆだん)です。お祈(いの)りを通(つう)じた神(かみ)様(さま)との交通(こうつう)は何(なに)よりも私(わたし)たちの魂(たましい)と人生(じんせい)を美(うつく)しく豊(ゆた)かにしてくれます。神(かみ)様(さま)が私(わたし)たちの玩具(がんぐ)に回答(かいとう)してくれます。人間(にんげん)が経験(けいけん)できる最上(さいじょう)の役(やく)は、神(かみ)様(さま)の役(やく)です。靈肉(れいにく)間(かん)に必要(ひつよう)なすべてのこと、そして自分(じぶん)と隣人(りんじん)のためのあらゆるものを神(かみ)様に求(もと)めることができます。。。だから、お祈(いの)りをしてできるのが、幸福(こうふく)の理由(りゆう)です。このような幸(しあわ)せはキリスト人(ひと)なら誰(だれ)でも享受(きょうじゆ)することができます。皆(みんな)さんは、このような幸(しあわ)せを積極(せきよく)的(てき)に享受(きょうじゆ)してください。ある者(もの)にもっとくれる神(かみ)様(さま)の恩寵(おんちよう)が皆(みんな)様(さま)に取(と)り組(く)むようになることを願(ねが)っています。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

魂に有害な所有と有益な所有

ある日多い人々がイエス様に集まって来ました。群衆の中でどんな人がイエス様を向けて “「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください」。彼に言われた、「人よ、だれがわたしをあなたがたの裁判人または分配人に立てたのか」。それから人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである」。(ルカによる福音書 12:13~15)とおっしゃいました。

それからは生命と財物の関係を比喻として詳しい説明しました。その比喻はこのようです。ある金持ちがいたがその年農業がよくできて畑に収穫がふんだんになりました。金持ちは穀食を保存する方法と宴を思いました。イエスキリストがこの金持ちに対して **神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである。』**” と言いました。例外的な場合を除いて人は誰も長く暮らすのがほしいです。それと共に多い所有するのを願います。その所有のふんだんさが長く生きるのに役に立つと思います。しかし所有のふんだんさが長く生きるのに必ず役に立つことではないです。

“人のいのちは、持ち物にはよらないのである。”というお話には所有するのが多ければ永生を得るのに差し障ることができるという意味を内包しています。ある金持ち青年がイエス様に駆けて来て “私が何をすると永生を得ますか?” と質問した事件の記録には所有が多ければ永生を得るのに差し障ることができるという事実がよく現われています。ある日若い金持ち官員がイエス様にひざまついて質問するのを “私が何をすると永生を得ますか?” と言いました。この若い金持ち官員は外的に見れば何一つ不足なのがない人だったが永生に対する確固な知識と信仰がなかったです。イエス様は金持ち青年に “あなたがいましめを知っているのだから人殺しをするな、姦淫するな、盗むするな、偽り証拠するな、欺いて取らないな、あなたの親を敬いなさいと。” おっしゃいました。イエス様がこのようないましめをおっしゃることはこれを行うので永生を得るからではないです。実はこのようないましめが要求する内面的意味が分かるようになればどんな人もいましめを完全にすべて守ることができないという事実を悟るようになります。ところで金持ち青年は直ちに答えるのを “先生よ、これは私が幼いころからすべて守りました。” しました。彼は律法が要求するのが何なのかよく分からなかったまま律法を守ると労力して来た人でした。

それで彼は “まだ何が不足ですか?” と言いました。彼は人間が律法を行うことで永生を得るという観念に深く濡れていたから彼が何をもちと行わなければならないか教えてくれと言いました。イエスキリストがその青年におっしゃるのを “あなたにむしろ一つ不足なのがあるから行ってあなたのあることを売り切って貧しい者等と与えそんなにすれば天から宝華があなたに在るそれから来て私を従いなさい。” しました。

イエス様はその金持ち青年にいましめを守るということが何を意味するかを教えてくださいました。律法を守ろうとすれば神様が要求するのによって律法遵守をしなければなりません。たとえ自分の所有を売り切って貧しい者と与えると言ってもそれでいましめをすべて守るようになるのではないです。他人の物を貪れば盗んだことと同じ犯罪行為で見做すのが律法です。すべての律法をすべて守っても一つさえ破ればすべての律法をすべて破ったことになるのが律法です。だから律法で義のあるようになる人は一人もありません。金持ち青年がイエス様のお話を聞いてその席から “イエス様、私が律法では義のあるようになることができないことをもう分かりました。私を助けてあげてください。” と叫ばなければなりません。ところで金持ち青年は “悲しい気配をして” “甚だしく心配して” イエス様を立ち去ってしまいました。金持ち青年は永生を得ることを人生の重大課題で分かっていたしこれを切望したことは間違いないです。しかし実際に自分の財物を皆あきらめなければならぬと思うと永生より財物の方を選んでしまいました。

聖書は “彼が大きい金持ちであるだけに” と説明しました。財物が多いということが彼の限界と悲劇をもたらした原因でした。永生はすべてのものをすべてあきらめても得なければならぬ価値があるのです。しかしあきらめやすすくないです。多くのことを持ったということが救いと永生を得ることに障害物になることができます。知識が多くて、学位をたくさん持ったから福音に耳を阻む人々がいます。世の中の地位と名声そして財物が多いので救いの真理を受け入れない人々がいます。すぐれた才能を持ったから伝道者をそまつに待遇する人々がいます。永生を得るためにこのすべてのものをあきらめなさいと言えようする人がいますか? そうだから時には神様が彼の選んだ民をキリストの中に導くためにこんなものなどを忘れてしまうように攝理なさる場合があります。それによって不便と苦痛を経験しても永生を得るようになるためからです。ここで私たちが分からなければならないことは実際にこんな所有たちを皆投げ捨てなければならないというのではないです。永生がそんなによりもっと重いということが分かって、永生とこんなものなどを二者択一しなければならない場合なら躊躇なしに永生を選ぶことができる者にならなければならないというのです。イエス様は金持ち青年と自分の対話を聞いている弟子たちを見回しておっしゃるのを “**イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。**”(ルカによる福音書 18:24, 25) と言いました。

弟子たちが甚だしく驚いて “それなら誰が救いを得ることができますか?” しました。弟子たちが甚だしく驚いたことはユダヤ人たちの一般的な考えで金持ちは神様の福を受けて 富んでいるようになったことで分かっているのに、らくだが針の穴に入って行くのがそんな金持ちが神様の国に入るより易しいとイエスキリストがおっしゃったからです。イエス様は答えるのを “**人にはできない事も、神にはできる。**” と告げました。ここに福音が啓示されました。救いは神様だけがなさることができる事です。らくだが針の穴を通過するようにする奇妙な事を神様はなさいます。救いを得るのにあってその所有の大きさは何らの関係がないです。神様の選ぶことを受けた人は偶像崇拝を悔い改めて生きていらした神様位に帰って来るようになります。こんな事はらくだが針の穴を通過するよりもっと奇妙な事です。

神様に選ばれた人は世の中の地位、権勢、財物より永生をもっと珍しいことで分かって福音を信じて伝えるのに力をつくすようになります。こんな事はらくだが針の穴を通過するよりもっと驚きべきです。らくだが針の穴を通過したよりもっと奇妙なことを他のことから捜す必要がないです。まさに私たちがイエスキリストを信じて愛するようになったことがまことに驚くべきで奇妙な事です。神様は救いをもたらした信者たちが福音を伝えるように言い付けました。これは聖徒たちに授けられた特権です。私たちの考えには到底イエス様を信じないような人でも福音を伝えなければなりません。福音を伝えることは人がするが驕慢と愚鈍な人生たちを低めて破りながら悔い改めるようにすることは神様だけがなさる仕事だからです。

“人のいのちがその所有のふんだんさに従ったではないと言うことの重要さを言ってくれます。永生を得た人は自分が期待したより早く世を去るとしても名残惜しがらなくてもいいです。肉身の生命が終わればまっすぐに天国に入って行くようになるからです。ただこの世の中に泊まる間所有するようになるものなどをよく使わなければなりません。神様の光栄のために使わなければなりません。神様を嬉しくするために使わなければなりません。イエスキリストが尊くなる事のために使わなければなりません。もうちょっと具体的に言わば礼拝のために使わなければなりません。福音を伝えるのに使わなければなりません。福音を歪曲されるようにして混雑するようにする者等の正体を現わして聖徒たちが惑いされないようにする仕事に使わなければなりません。キリストの身になった教会のために献身奉事するのに使わなければなりません。人の魂と永遠な命は所有のふんだんさに左右されません。イエス様を信じるか信じないかに従っています。人の魂に有害なのかあるいは有益になるのかということとは所有の分量ではなく所有したことをどんなに使うのかに係ります。

聖徒の皆さんはイエスキリストによって永生を得た者として皆さんがこの世の中に泊まる間所有するすべてのものを魂に有益になるようになさるのを願います。